

授業科目	地域生活の理解	担当教員	専任教員☆ 橋本沙生子	単位数	1	時期	1 年次 4 月～7 月	DP	1
			時間数	1 5					
目的と目標	地域や地域生活を理解し、人々の生活が健康に与える影響について学ぶ。 1 生活の基盤としての地域について理解できる。 2 地域生活を理解し、地域生活が健康に及ぼす影響について学ぶ。 3 地域生活におけるリスクを知り、それが人々の健康に与える影響について理解できる。								
回数	学習課題	内 容					方 法	担当教員	
1	地域とは	(1) 地域の定義 (2) 地域包括ケアシステムと地域共生社会 ①地域包括ケアシステムと地域共生社会の概要 ②自助／互助／共助／公助の意義と役割 (3) 地域（中学校区）に暮らす人々の特性 ①地理、風土、商業施設、交通、公園、保健・医療・施設などの場 ②自助（自らの健康管理）及び互助（ボランティア活動・住民組織の活動）の役割					講義	専任教員 (橋本沙生子)	
2	生活の基盤としての地域の理解	(1) 居住地域の地域調査 ①地域を知るための方法 ②活動計画の立案					演習		
3		(2) グループ毎に活動計画に基づき実施							
4		(3) 発表準備							
5		(4) 発表							
6	地域生活者の災害対策 (3 時間)	(1) 地域生活におけるリスクの理解					講義 演習		
7		(2) 地域生活における災害対策							
8									
評価方法		成果物 30 点 自己評価 10 点 ピア評価 10 点 レポート 50 点「地域の多様性と人々の生活が健康に与える影響について」 合計 100 点 ＊再試験の場合、レポート 100 点分で評価する。							
教科書参考文献		系統看護学講座 地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の基盤（医学書院） 配布資料							
事前準備や受講要件等		適宜提示した内容について期限を厳守して提出する。 教科書を読んで講義に臨むこと。							
☆担当教員の実務経験		看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。							

授業科目	地域生活を支えるしくみ	担当教員	専任教員☆ ①橋本 沙生子 外部講師 ②安田 匡志 ③児玉 正貴子 ④岩田 利博☆ ⑤桜井 みゆき☆	単位数	1	時期	1 年次 7 月～12 月	DP	1
				時間数	30				
目的と目標	地域・在宅看護の対象の特徴を理解し、地域生活を支えるしくみの実際を学ぶ。 1 地域・在宅看護の対象の特徴が理解できる。 2 ライフサイクル・健康障害別にみたサービスや活動の実際を知り、地域生活を支えるしくみが理解できる。 3 地域包括ケアシステム・地域共生社会のしくみが理解できる。								
回数	学習課題	内 容					方 法	担当教員	
1	地域・在宅看護の対象	(1) 地域・在宅看護の対象 ①対象者個人 ②対象者の家族 ③対象者を取り巻く地域					講義	専任教員 (橋本沙生子)	
2	ライフサイクル・健康障害別(難病・精神・母子の健康及び障害・老年の健康及び障害)にみたサービスの理解 (16 時間)	(1) 健康に生活する人々への健康維持・増進のためのサービス* (成人、高齢者、母子) *調べたサービスからサービスの必要性、関係する制度、背景を知る					演習 個人ワーク	専任教員 (橋本沙生子)	
3		(2) 障害を持ちながら地域で生活する人々のサービス*					グループ討議		
4		(障害児・者、要介護高齢者、精神、難病)							
5		*事例を基に、対象の生活の困り事に対して、生活しやすくするためのサービスを明確にする							
6									
7									
8		地域生活を支える活動の実際	(1) 地域福祉の推進 ①岐阜市の健康増進推進活動の実際 ②クアオルト® *学内研修 2 時間追加 ③社会福祉協議会の活動の実際					講義	外部講師 (安田匡志)
10	(2) 高齢者への健康支援活動						(児玉正貴子)		
11	(3) 障害児・者への健康支援活動						(岩田 利博)		
12	(4) 難病療養者を支えるしくみと活動の実際						(桜井 みゆき)		
13	地域包括ケアシステム・地域共生社会の理解 (1 時間) 試験 (1 時間)	(1) 地域包括ケアシステムと地域共生社会					講義	専任教員 (橋本沙生子)	
14									
評価方法		成果物 30 点 自己評価 10 点 ピア評価 10 点 筆記試験 50 点 合計 100 点 *再試験の場合、筆記試験 100 点分で評価する。							
教科書参考文献		系統看護学講座 地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の基盤 (医学書院) 医療福祉総合ガイドブック (医学書院) 国民衛生の動向 (一般財団法人厚生労働統計協会) 配布資料							
事前準備や受講要件等		適宜提示した内容について期限を厳守して提出する。 教科書を読んで講義に臨むこと。							
☆担当教員の業務経験		①⑤看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ④社会福祉士として老健・地域包括支援センターに勤務した経験を活かした授業展開をする。							

授業科目	療養生活を送る対象の看護	担当教員	専任教員☆ ①橋本沙生子 外部講師☆ ②大黒 久美子 ③猪島 三貴 ④中川 みのり ⑤野崎 加世子 ⑥増井 法子 ⑦大羽 正美 ⑧丹羽 佳恵	単位数	1	時期	2年次 4月～7月	DP	1
目的と目標	地域・在宅での生活の場に応じた看護とサービス提供機関を理解し、自宅で療養生活を送る対象の看護を学ぶ。 1 生活の場に応じた看護とサービス提供機関が理解できる。 2 在宅看護の実際を知り、その人らしい生活を支える看護について理解できる。								
回数	学習課題	内 容					方法	担当教員	
1 2 3 4	生活の場に応じた看護とサービス提供機関 (7時間)	(1) 生活の場に応じた看護とサービス提供機関 ①自宅(居宅): 地域包括支援センター、訪問看護ステーション ②入所施設: サービス付高齢者向け住宅、有料老人ホーム、ケアハウス ③通所施設: デイサービス、デイケア ④その他: 看護小規模多機能型居宅介護、小規模多機能型居宅介護					講義 演習 発表	専任教員 (橋本沙生子)	
5	療養の場の移行に伴う看護	(1) 入院治療となった対象の病院の支援の実際 (入院設定から退院まで)					講義	外部講師 (大黒久美子)	
6		(2) 退院支援の実際 ①施設内における取り組み					講義	外部講師 (猪島 三貴)	
7		(3) 自宅療養が必要となった対象のケアマネジメントの実際 ①ケアマネジメントの理解 ②ケアマネジメントのプロセス					講義	外部講師 (中川 みのり)	
8		(4) 訪問看護ステーションの仕組みと利用					講義	外部講師 (野崎 加世子)	
9		(6) 在宅における援助関係の基本					講義	外部講師 (丹羽 佳恵)	
10		①訪問時の心構え ②療養者および家族との関係の取り方 ③訪問看護ステーションにおける訪問時のマナー					演習		
11		(1) 在宅におけるエンド・オブ・ライフケアの実際 ①アドバンス・ケア・プランニング ②グリーフケア					講義	外部講師 (増井 法子)	
12		(2) 医療ケア児への看護の実際					講義	外部講師 (大羽 正美)	
13		(3) 難病療養者への看護の実際							
14		(4) 複雑困難事例への看護の実際 ①多問題をもつ家族への支援						外部講師 (丹羽 佳恵)	
15		(5) 在宅酸素を受けている療養者に対する援助					講義 演習		
15	まとめ 試験 (1時間)	(1) 自宅で療養生活を送る対象の看護					講義	専任教員 (橋本沙生子)	

評価方法	筆記試験 50 点 レポート 50 点 「在宅看護の実際を知り、その人らしい生活を支える看護について」 合計 100 点 ＊再試験の場合、筆記試験 50 点およびレポート 50 点 合計 100 点分で評価する。
教科書 参考文献	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の基盤（医学書院） 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護論 2 地域・在宅看護の実際（医学書院） 配布資料
事前準備や 受講要件等	適宜提示した内容について、期限を厳守して提出する。 教科書を読んで講義に臨むこと。
☆担当教員の 実務経験	①②③④⑤⑥⑦⑧看護師として医療機関・訪問看護ステーションに勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	療養生活を支える 看護技術	担当教員	専任教員☆ ①橋本沙生子 外部講師☆ ②野々村 育栄 ③浅野 崇 ④土田 学	単位数	1	時 期	2年次 4月～7月	DP	1 3
目的と目標	療養生活を支える生活援助技術、医療ケアを基盤とし、療養者の状況・状態を適切に判断するための看護実践を学ぶ。 1 食事、排泄、清潔、住環境に関する生活援助技術、医療ケアが理解できる。 2 在宅療養者の状況・状態を適切に判断し、起こり得る変化への対処を考えることができる。								
回数	学習課題	内 容				方法	担当教員		
1	暮らしの場で看護をするための心構え	(1) 暮らしをかえる意思決定を支える ①意思決定とその支援 ②療養者を支えるチームづくり ③パートナーシップの構築 (2) 在宅における服薬管理				講義	専任教員 (橋本沙生子)		
2	生活の場における食事・栄養の援助	(1) 在宅における食事・栄養のアセスメント ①在宅における食の意義 ②アセスメントの視点 (2) 自立のための自助具の利用 (3) 経口摂取困難のある対象に対する援助 ①在宅中心静脈栄養法 ②胃瘻、腸瘻の管理				講義	同上		
3	生活の場における排泄の援助	(1) 在宅における排泄のアセスメント (2) 自立のための排泄用具の活用 (3) 排便困難な対象への排便コントロールの援助 (4) 排尿困難な対象への排尿コントロールの援助 ①膀胱留置カテーテルの管理				講義	同上		
4		(5) 人工肛門造設者に対する援助 ①ストマケア				講義 演習	外部講師 (野々村 育栄)		
5	生活の場における清潔の援助	(1) 在宅における清潔のアセスメント (2) 清潔保持のための家族への指導 (3) 在宅における清潔援助の方法 ①片麻痺のある療養者への入浴介助 ②寝たきり療養者への清潔援助				講義	専任教員 (橋本沙生子)		
6 7		(4) 皮膚トラブルのある対象への援助 ①褥瘡のケア				講義	外部講師 (野々村 育栄)		
8	生活の場におけるリハビリテーション	(1) 生活リハビリテーション ①在宅における移動援助の特徴 ②生活環境の調整（住宅改修）				講義	外部講師 (浅野 崇)		
9		(2) 在宅における呼吸リハビリテーション				講義	外部講 (土田 学)		
10 11 12 13 14 15	在宅療養者への看護技術の活用 (11時間)	(1) 事例：在宅で生活する療養者 シミュレーション課題： 事例の(①～④※)変化への気づき、状態・変化の解釈及び対応、基本的態度とコミュニケーション ※①生活環境、②家族関係、③治療処置、④訪問マナー				講義 演習	専任教員 (橋本沙生子)		
	試験 (1時間)								

評価方法	筆記試験 100 点（1～3・5・8～15 回：80 点、4・6・7 回：20 点）
教科書 参考文献	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の基盤（医学書院） 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護論 2 地域・在宅看護の実践（医学書院） 配布資料
事前準備や 受講要件等	在宅療養者の事例および事前学習内容は改めて提示する。指定した期日までに提出すること。 教科書を読んで講義に臨むこと。
☆担当教員 の実務経験	①②看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ③④理学療法士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	地域・在宅看護活動の創造	担当教員	専任教員☆ 橋本沙生子	単位数	1	時期	2 年次 11 月～12 月	DP	4 6
				時間数	1 5				
目的と目標	地域で新たな看護活動を創造する意義を理解し、その方法を学ぶ。 1 地域・在宅看護活動の創造とはなにかを理解する。 2 地域で新たな看護活動を創造する意義や方法を理解する。								
回数	学習課題	内 容					方法	担当教員	
1	地域・在宅看護活動の創造とその考え方	(1) 関連図（エコマップ）作成 ①疾患が及ぼす地域生活への影響 ②健康状態と日常生活との関連 ③療養者、家族の関係および意向 (2) ケア会議の実際 ①ケア会議の機能 （地域ケア会議／サービス担当者会議） ②ケア会議のプロセス					講義	専任教員 (橋本沙生子)	
2	地域・在宅看護活動のアセスメントの視点（9 時間）	(3) アセスメントの視点					演習 グループ討議		
3		①個人・家族・地域の関係性							
4		②自助／互助／共助／公助の意義と役割							
5		③療養者、家族の強みの分析							
6	(4) 地域生活を支える看護の検討 ①健康状態を踏まえた療養者、家族の意向、 地域および生活環境の支援体制の検討 ②専門職、地域の人々と協働する方法の検討								
7	地域生活を支える看護の発表および評価	(5) 地域生活を支える看護の発表および評価					発表		
評価方法		成果物 60 点 自己評価 20 点 ピア評価 20 点 合計 100 点 ＊再試験の場合、個人の取り組みによる成果物を 100 点分で評価する。							
教科書 参考文献		系統看護学講座 専門 地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の基盤（医学書院） 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護論 2 地域・在宅看護の実践（医学書院） 医療福祉総合ガイドブック（医学書院） 国民衛生の動向（一般財団法人厚生労働統計協会） 配布資料							
事前準備や 受講要件等		適宜提示した内容について期限を厳守して提出する。 教科書を読んで講義に臨むこと。							
☆担当教員 の実務経験		看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。							